

インサイド◆ニュース

ベナン共和国 奴隷貿易時代の過ちを謝罪 国家挙げて和解と平和を



西アフリカにあるベナン共和国は、奴隷貿易の拠点だった

大統領自らアメリカ訪問し犠牲者子孫に謝罪

西アフリカに位置するベナン共和国。ベナンは奴隷貿易時代の中心地で、かつて奴隷を輸出することで栄えた国だ。その後、フランスによる植民地時代、社会主義時代を経て、1991年、ベナン共和国に改名。90年の各代表者国民会議開催を機に、奴隷貿易時代に犯した過ちなどを悔い改め、謝罪する和解と平和の動きが始まった。日本在住のベナン人エマニュエル・ベベニオンさん(ワレリス女学院大学文学部共同研究室講師)は、このベナンの和解の歴史を論文にまとめ、日本の高校などでベナンの和解の動きについて講演してきた。この活動がベナン共和国和解発展庁に認められ、2012年には同国和解発展庁の公式親善大使になった。【中田 朗】

ベナン共和国は日本の約3分の1の面積で、人口は1千60万人(2014年「世界銀行資料」より)。民族は46部族で構成され、公用語はフランス語。ブドゥー教発祥の地でもあり、宗教はブドゥー教50%、キリスト教35%、イスラム教15%だ。ベナン共和国は和解と平和の動きに至る経緯は、以下の通り(エマニュエル・ベベニオン氏制作の講演資料より)。

ベナンの旧国名「ダホメ王国」は奴隷貿易の中心地だった。16世紀から19世紀初頭まで、この地域では部族は互いに争い、勝者は敗者に奴隷にすることを強制的にアフリカ人がアフリカ人を奴隷としてヨーロッパに売ることが続いた。その数は1千から1千200万人にも上る。

19世紀に入ると、奴隷貿易が廃止されるが、ヨーロッパ諸国によるアフリカの植民地支配が始まる。ダホメ王国はフランスの植民地となった。1960年、フランスから独立したが、以後12年間、軍事クーデターの頻発により混乱。75年には国名を「ベナン人民共和国」と改称し、社会主義路線を取った。以後15年間、共産主義による悪夢の時代が続く。

やがて共産主義体制の下、経済政策が失敗し、国民が貧困に陥るなどし、国民の様々な動きがけにより、ベナン社会主義政府は89年12月、マルクス・レーニン主義の放棄を宣言し、国民会議を開催することを発表。90年、ケレク大統領と宗教者・国民代表のドゥ・スー・サ大司教が10日間わたり対話が行われ、ケレク大統領が赦しを請い、スー・サ大司教が国民に赦しを説くことを通じて和解が成立。これがベナンの和解と発展の始まりとなった。

翌年、民主化後最初のニセフォー・ソグロ大統領就任。ソグロ大統領の提唱により、ユネスコによる国際プロジェクト「奴隷の道」が94年9月1日に始まり、奴隷貿易の真実が明らかに。同年、ベナンの奴隷海岸に「帰る門」が建設された。この門は4年後の98年、ベナン「全国謝罪の日」に、門の名称が「帰還の門」と改名された。96年に再選を果たした

ケレク大統領は99年、アフリカ代表としてアメリカを訪問。奴隷として連れられてきたアフリカ系アメリカ人へ謝罪をした。当時のクリントン大統領はその謝罪を高く評価し、ホワイトハウスの「民族和解のためのワシントン・ホワイトハウス事務所」を設置した。

12月には「和解と発展のための国際指導者会議」がベナン共和国の首都コトヌーで開催された。「奴隷貿易に関する和解決議」を採択。その和解と発展の原理は「過去を認め、事実の確認、誤りを認める、△赦し△セスを逆転させる」というものだった。

決議では、以下の点で合意した。①我々アフリカ大陸のアフリカ人は、我々の祖先がかつて奴隷貿易に参加したことを認める。②我々ヨーロッパ人は、この奴隷貿易に関与した責任があることを認める。③我々ヨーロッパ系アメリカ人は、奴隷貿易を拡大、発展させたという重大な過失があったことを告白する。④奴隷貿易の犠牲者の子孫である我々世界に離散した



ベベニオンさん

一人で始めたことが公式に

ベナン共和国和解発展親善大使 エマニュエル・ベベニオンさん

アフリカ人は、それらの謝罪を受け入れる。そして、ヨーロッパ人売買人との取引の共犯者であったアフリカに住むアフリカ人を赦す。

この和解決議の意義を引き継ぐため、共に積極的に活動することを確認した。

この国際会議が終了すると、駐米ベナン大使リル・オギン氏はアメリカ50州を回り、アフリカ系アメリカ人に対して奴隷貿易の歴史について謝罪する旅を行った。

「この資料は自分で書いた論文の一部。いろいろなデータを調べ、分析した学術的なものです。これがベナン共和国の公式報告書になり、ベナン共和国和解発展庁の公式親善大使に認められることになったのです。ベベニオンさんは、笑顔でそう語る。

ベベニオンさんは、日本人の妻と結婚したこと機に1999年に来日、ミッションスクールで英語教師をしながら、機会があれば学生などに、ベナン共和国の和解と平和の動きについて講演してきた。ベナンは奴隷貿易の中心地だったのです。奴隷貿易が終わってからも心の中では終わってはいない。謝罪すること赦すことがなかった。けれど、



ネパール大統領(左)に花束を贈る

2002年には、「ベナン国際ヨスベル&ルーツフェスティバル」をコトヌーで開催。このフェスティバルは、世界中に離散したアフリカ人が祖先の土地に再び戻ってくる機会となり、文化と芸術を通して相互交流により、アフリカの新しい時代の幕開けとなった。

06年まで2期務めたケレク大統領は、和解と発展のための活動が評価され、03年にアラバマ州共和党協会から「世界的なその10年後、健康上の理由で神学校を退学しなければならなかった。その後、神学校の時に学んだ英語を学び、英語を教える、通訳する仕事をしていた。そして仕事でニジェールに行った時、そこで看護師として働いていた日本人女性と出会い、結婚。そこで妻の日本舞踊を見ました。楽しかった。それが結婚のきっかけです」と照れながら話す。

日本に来たからは、高校・大学で英語教師として働いた。教会は「英語で聞ける」ということで、カトリック教会でなく、木の米軍キャンプ内にあるプロテスタント教会の礼拝に家族で参加するようになった。昨年、妻と3人の息子と一緒に家族全員で洗礼を受けた。その傍ら、歴史が好きだったベベニオンさんは、独自に母国のベナン共和国の歴史を調べてまとめ、学校などで発表。20

ルツちゃん
by.かつま No.1133

あらあら、かわいいルツちゃん、おうちはどこなの？

早くおうちに帰らないとみんなが心配するわよ。

えっ？心配してくれる家族がいなくてさみしい？

たいへんもう日は暮れるのに、おちいちゃん、トイレからもどってこない。

イエスさま、彼女を守ってください。

ごめん、わたしには神の家族がいるの、うれしい。

よかったわ、心配してましたよ。